タイトル	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
ばらまつり ～授業に入りにくい児童とともに～	小	グループ学習 低学年ばら （国語・算数）	

＜グループの目標＞

☆教師とやりとりをしながら活動する中で、模倣する力や見通す力を育て、教師や友達と一緒に活動する楽しさを感じる。

☆教師と一緒にみたて・つもり活動を経験し、話し言葉やイメージする力の土台を育てる。

＜ことば・あそび＞のねらい

☆遊びを通して、みたて・つもり活動に触れ、教師や友達との関わりを豊かにする。

☆絵本などの読み聞かせを通して、教師とやりとりしながら身振りや言葉で模倣する力を育てる。

☆ものを自分から操作したり変化させたりして、結果が見通せる遊びをたっぷりと経験する。

☆遊びの中でわかる言葉を増やすとともに、教師や友達に伝える力を育てる。

１．授業づくりに向けて（児童の実態、題材設定など）

ばらグループは、小学部低学年４名の児童（３年２名、２年１名、１年１名）からなる集団である。合同学習を含め、教室や学習活動そのものに入りづらい児童が４名中２名（１年 A 君，２年 B さん）いる。また、いつも一番でないと気が済まなかったり、見通しをもちすぎ、早くおしまいにしたかったりする児童（３年 C 君）や他の友達が気になり集中が続かない児童（２年 D さん）がいて、１学期のはじめは、教室から出ていく児童を追いかけたり、教室で活動をしていても自分の思い通りにならなくて怒ってしまう児童に気持ちを添わせたりと、なかなか落ち着いて取り組める状況ではなかった。教室に入りにくい児童は、教室で一緒に活動できるのは一瞬で、なかなか持続してというところまではいかなかったが、少しでも興味をもっていることを手掛かりにやりとりや模倣遊びができる絵本の読み聞かせ、作ったもので遊ぶ活動（ボーリング遊びなど）を考えながら取り組んでいった。A 君や B さんは、手元に支えとなる粘土やおもちゃを置いてなら、教師を支えに徐々に耳や視線を向ける姿が見え始めた。その中でも、作って遊ぶ活動は、教室から出て行ってもまた戻ってきて取り組める活動になっていった。１学期の様子を踏まえ、２学期は、少しずつでも教師と安心して取り組める活動、支えとなる教師との関わりだけではなく、友達との関わりに自信がもてる楽しい活動はないかと考えた。作って遊べる活動は２学期も取り入れ、友達同士をつなげていく活動、友達とやりとりができる取組を考え、今回の「ばらまつり」を設定した。

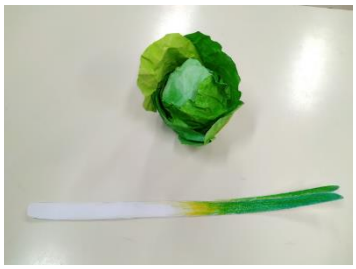
「ばら（グループ）まつり」では、絵本『おまつり』を導入に用い、そこに出てくる屋台、特になじみのある焼きそば、唐揚げ、輪投げ、お面、金魚すくいの屋台を設定し、店屋になったり、客になったりして友達とやりとりができる遊びをと考えた。また、屋台に出てくる店の物や材料を（えがく・つくる）活動の中で制作できるようにした。この取組に出てくる店屋には、いろいろなみたて・つもり活動があり、自分から道具を操作して結果が見通せる遊びも含まれている。店屋と客役の間にはチケットでやりとりできるようにし、簡単な言葉で伝えられるように考えた。

２学期前半は、それぞれの屋台で使う道具づくりや材料づくりなど作る活動を中心に取り組み、作って遊べるように毎回設定した。後半は、まつり遊びを中心にし、焼きそば屋、お面、輪投げあそびをする日と唐揚げ屋、金魚すくい、輪投げ遊びをする日を交互に取り組んだ。焼きそば屋と唐揚げ屋は店役と客役に児童達が分かれて取り組めるようにした。まつり遊びを積み重ねる中で、屋台準備も児童ができるようにどの準備をしたいか選択し、教師とともに机を運んだり看板を貼ったり、的やお面を設置したり、自分達が中心になって遊びが展開できるように流れを作っていった。

２．学習内容（工夫点など）

（えがく・つくる）の取組※参考までに

輪投げ①ペットボトル（２リットル）にビニールテープをはさみで切って模様をつけ、的を作る。
②新聞紙を巻いていき、ねじって輪っかにし、テープを巻いて輪を作る。
③的に貼るキャラクターカードは、教師が準備する。
お面：自分の好きなキャラクターの見本を見ながらパーツを貼って面にする。
唐揚げ：Ａ４用紙に、はけで茶色に色付けし、乾いたら丸める。
焼きそば①茶色の色画用紙をシュレッダーし、麺を作る。
②Ａ４用紙に、はけで黄緑色を色付けし、キャベツを作る。
キャベツの葉の形に切って巻いていき、キャベツに見立てられるように工夫する（教師）
キャベツの葉を取り、ちぎる。（児童）
③細長い描いたネギをはさみで切る。
④ショウガ（赤の色画用紙）をはさみで切る。
⑤肉（薄茶の色画用紙）をちぎる。
金魚すくい①赤・黒の正方形のビニールの真ん中にペットボトルのキャップを置き、包んでモールでねじる。
②目玉シールを貼る。
③白、水色のタフロンテープを割き、水に見立てる。



工夫点：キャベツ、ネギは本物に見立てられるように工夫した。
改善点：金魚のモールをねじる活動は、難しく教師と一緒に手を添えてもらいながら取り組んだ。はじめは、金魚すくいの水を本物の水にしていたが、水遊びになっていきやすかったため、タフロンテープを割き、水に見立てた。

（ばらまつり遊び）の取組
（１） 準備
どの準備をしたいかカードから選び、教師と一緒に机を運んだり、看板を貼ったり、道具を設置（お面を並べてつるす。輪投げの的、輪っか、カードのセッティングなど）したりする。
（２）まつり遊び
①はっぴを着る。かごを持ち、その日のチケットをもらう。店ごとにチケットを渡し、買ったものはかごに入れる。
②屋台に行こう、店屋になろう
焼きそば屋：客役は「（焼きそば）ください」といってチケットを渡す。店役はチケットをもらい、鉄板に肉、キャベツ、ネギ、麺をフライ返しで炒めて焼く。できたら容器に入れ、ショウガも入れる。容器をゴムで蓋をし、箸を挟んで客に「どうぞ」と言って渡す。
唐揚げ屋：客役は「（唐揚げ）ください」といってチケットを渡す。店役は、紙を丸めた唐揚げを油（パット）に入れ、少しかき混ぜてトングで取り出す。３個を数えて透明コップに入れ、串を指して「どうぞ」と言って客に渡す。
金魚すくい：客役になり「ください」と言ってチケットを渡す。店役の教師が「どうぞ」と言ってポイと金魚入れる容器を渡す。
お面屋：客役になり、「ください」と言ってチケットを渡す。店役の教師がどれがよいかを聞き、答えたものを「どうぞ」と言って渡す。
輪投げ：客役になり、「ください」と言ってチケットを渡す。店役の教師が輪っかを４つ「どうぞ」と言って渡す。
好きなキャラクターが貼っている的をねらって４回輪っかを投げる。入った的のカードを見て机に並べているカードの中から同じカードを選んでもらう。

→「お面屋さん」

③ばらまつり音頭を踊ろう
輪になって映像や音楽に合わせて踊る。
④後片付け
（３）終わりのあいさつ

【工夫点】・屋台の看板は、ひらがなで書き、読める児童に準備をお願いした。
・焼きそばを店役になって作るときは、♪焼きそばつくろう（♪しあわせつくろうの替え歌）を歌いながら取り組み、楽しく活動ができるようにした。
・どの店の準備をするかを選べるようにチケットと同じカードを用意したが、そこにも文字と絵を入れ、分かりやすくした。
・店役の児童が焼きそばや唐揚げを作るときは、本物のフライ返しやトングを使い、見立て活動がしやすいようにした。また、金魚すくいの時に使うポイも本物を使った。
・輪投げは、投げる場所や的を置く場所に印を付け、分かりやすくした。４回投げると言うルールを設け、入った的に貼っているカードをもらえるようにした。４回投げた後、入った的カードを見ながら、机に並べているカードと一致させる活動を取り入れた。
・最後のばらまつり音頭を踊るときは、太鼓遊びに夢中になっているＡ君に太鼓役をしてもらうことで楽しみをもち、グループの学習に向かえるようにした。

３．取組を終えて（良かった点・改善点）

・作って遊ぶ活動を初めに取り組んだことで見通しがもて、まつり遊びにつなげていくことができた。かなり長い取組ではあったが、徐々にどの児童も楽しめる活動となっていった。

・教室に入りにくかったＡ君は、少しずつ活動に気持ちを向けるようになり、２学期半ばくらいからは、ほぼ、１時間の授業の間、教室にいられるようになった。教室にいることで友達がしていることや活動が見て分かるようになり、支えとなるおもちゃがなくても取り組めるようになった。準備では、自ら看板を貼ったり机を運んだりする姿が見られるようになった。徐々に自信がもてるようになり、店屋になったときは、自分から材料を鉄板に入れて混ぜたり、容器に入れたりなど意欲的に取り組み、友達とのやりとりも自分で考えて「いらっしゃい、いらっしゃい、おいしいよ。」など言うようになった。

・Ｂさんは、支えとなる教師と一緒に焼きそばを焼いたり、容器に入れたりと友達の中で活動できるようになっていった。何より輪投げや金魚すくいなど楽しみにしている活動があり、教師と一緒に準備も含め、教室で活動できる時間が増えていった。友達とのやりとりも初めは教師に教えてもらって伝えていたが、だんだん自分で言える言葉も増えていった。焼きそばを焼く店員役は大好きで、自分から麺や材料を入れてフライ返しで混ぜたり、できた焼きそばをうれしそうに「どうぞ」と渡したりなど良い表情がたくさんみられた。

・Ｃ君は、積み重ねの中でまつりの取組が楽しみとなり、焼きそばを焼くときは自分から歌を歌いながら店員になりきって作っていくことができた。イメージをしながら見立てつもり遊びを展開でき、意欲的に取り組む様子がみられた。客役で焼きそばを買った後も椅子に座って「いただきます」をして食べる真似をする姿もあり、教師が想定していないこともイメージして楽しんでいた。準備や片付けも自ら積極的に取り組むことができた。授業参観後の懇談では、家でも♪焼きそばつくろうの歌を歌い、楽しんでいますと報告をもらった。

・Ｄさんは、どの活動に関しても意欲的で、特に準備活動から積極的に取り組み、自分の店の準備ができると友達がしている準備も手伝う姿がよくみられた。毎回店員役をやりたいと手を挙げたり、前に出てもイメージしながら焼きそばの材料を入れて作ったり、みんなの中で楽しむ様子がみられた。

・屋台の店員になることはどの児童も楽しみになり、順番を待ったり準備がスムーズなったりし、役割遊びができるようになっていった。店員役がとても上手になってきたため、保健室の教員にお願いをし、客役で買いに来てもらう時間も作った。また、授業参観で参観に来ていただいた保護者の方にも客役になってもらった。自分たち以外のお客さんが来たことでさらに自信を持ってやりとりできた。楽しい活動だったからこそ積み重ねができたと感じている。

・今回２学期の取組をまとめたが、３学期にもつなげられた。４人が教室で学習でき、授業の初めに当番になった友達が教師や友達を呼名したり、劇遊び「おおきなかぶ」にも取り組めたりでき、友達同士が意識しながら活動できたことに大変うれしく感じている。